

さいま市議会だより



No. 77

令和 6年 5月

3月定例会は2月20日から3月13日までの23日間の会期で開催されました。

佐伯藩参財天様参り
菊姫行列

題字は佐伯鶴城高校書道部の玉野井朱里さんと柴田弥季さんの作品です。

写真提供：菊姫行列実行委員会

- ★ 市議会は、受付の名簿に氏名等を記入するだけで傍聴できます。お気軽にお越しください。
- ★ 市議会に関する情報は佐伯市のホームページから閲覧できます。

佐伯市議会

検索



3,000万円減

但し 附帯決議案を提出

令和6年度当初予算 435億円

令和6年度佐伯市一般会計予算は、総額435億円で、対前年度比で9億3000万円の減額となりました。

「さいき7つの創生」を政策の柱としつつ、経済・社会・環境の三側面が調和した取り組み（佐伯版SDGs）や現在の社会情勢を踏まえた「シェアリング（連携・共有）、デジタル（DX）、グリーン（脱炭素・低炭素社会）」の視点を取り入れた予算編成をすることで、「さいきオーガニックシティ（人と自然が共生する持続可能なまち）」の実現をめざします。

主な総括質疑

質疑

教育行政について、クラブの地域移行に関しての地域支援などどのように予算をつけていく考えがあるのか。

答弁

基本的には土日祝の部活動を地域に移行する方針が

出しており、それに従って進めている。地域支援については地域の方あるいは地域の団体を大事にしていきたい。今後は国、県の補助等も視野に入れ、完全な部活動の地域移行がどういう形でできるのかを見据えながら、予算を考えていきたい。

1

豊かな自然環境と安全・安心な生活環境の創生

佐伯市地球温暖化対策実行計画策定事業 1,199万円
消防通信システム共同整備事業 3億5,837万円

2

暮らしと産業を支える生活基盤の創生

コミュニティバス運行事業 2億8,315万円
葛港賑わい施設整備事業 1,012万円

3

健康で安心して暮らせる共生社会の創生

さいきっ子医療助成事業 2億1,756万円
私立保育所等運営事業 16億7,384万円
妊産婦健康診査事業 3,259万円

質疑

ふるさと納税の方向性は。

答弁

現在佐伯市の強みは産品が多いこと。そして顧客の数が減っていないのは非常に優秀な状況である。いきなりボンと増えていくのではなく、じわじわと力をつけていくのも一つの戦略だと思っているので、10億かけて這い上がっていく。こういう気力を持って、ふるさと納税額を増やし、力をつけて、佐伯市の福祉、子育て、人口減少対策、いろんな面で財源を増やしなが

ら、頑張っていきたい。

附帯決議案を可決

一委員から議案第1号令和6年度佐伯市一般会計予算に対する附帯決議案が提出され可決されました。

【附帯決議案の要旨】

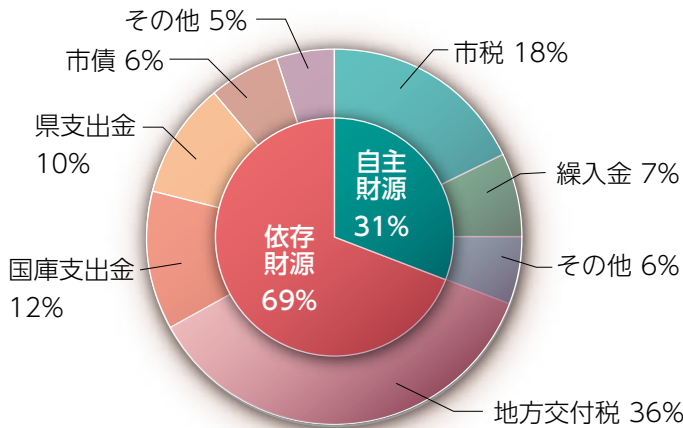
令和6年度補助金等を交付している事業は318事業にのぼる。補助金等を交付する根拠として、佐伯市補助金等交付規則に基づき交付している事業は161事業であること、事業ごとの要綱等に基づき交付している事業は157事業であることが明らかになった。また、補助事業者からの申請に基づく審査の過程でも、交付を受けようとする補助金等の額の算出の基礎が不明なこと、合併協議会での決定をそのまま踏襲している例があることなども明らかになった。佐伯市議会として、以下の点を要望する。

- ① 令和6年度予算においては、事業を執行する前に補助金等の交付根拠となる要綱等を至急定めること。
- ② 交付要件等については不断の見直しを行い、補助金等の交付事業の適正化を図ること。

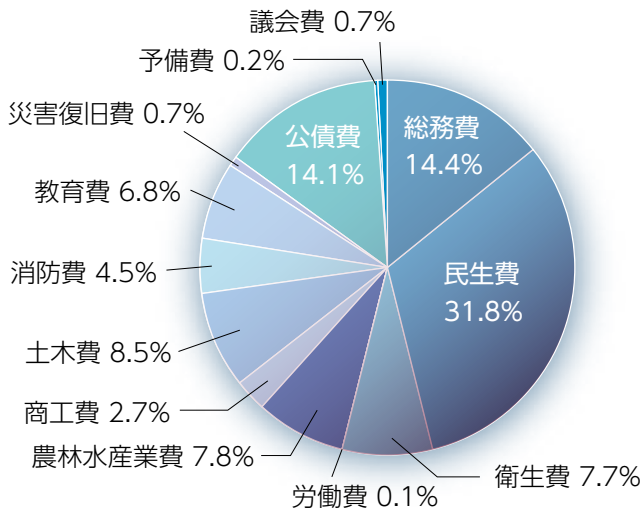
以上、附帯決議する。

「さいき7つの創生」 主な事業

歳入の構成比（自主財源・依存財源別）



歳出の構成比（目的別内訳）



【目的別内訳】

（単位：千円・％）

区分	令和6年度当初予算額	増減率
議会費	282,565	△2.3
総務費	6,239,258	4.9
民生費	13,839,971	0.4
衛生費	3,348,035	△9.2
労働費	15,686	△0.3
農林水産業費	3,406,095	△27.8
商工費	1,185,716	△4.4
土木費	3,700,807	13.5
消費費	1,964,523	5.4
教育費	2,957,595	△2.0
災害復旧費	316,600	249.1
公債費	6,143,149	△4.2
予備費	100,000	0.0
合計	43,500,000	△2.1

人が学び、人が生き、人が育つ
教育の創生

4

- 学校給食費保護者負担軽減事業 5,233万円
（物価高騰対応）
- 表現教育を通じた人間力育成支援事業 138万円

地域資源をいかした
産業と観光の創生

5

- 佐伯ブランド推進事業 1,625万円
- 海面漁業燃油高騰対策事業 1億135万円
（物価高騰対応）

人が交流し、
活力あふれるまちの創生

6

- 国際交流・多文化共生推進事業 1,792万円
- 韓国交流推進事業 70万円

地域が輝くまちの創生

7

- 小規模集落等支援事業 3,200万円
- 佐伯創生推進総合対策事業 9,700万円

その他

- 佐伯市制施行20周年記念事業 332万円
- キャッシュレス決済活用推進事業 502万円

「佐伯版SDGs」の主な取組

- 有機の輪づくり推進事業 1,538万円
- 自転車活用推進事業 1,193万円
- 地域コミュニティ推進事業 498万円
- 地場産品活用推進事業 999万円
- 林業・木材産業構造改革事業 8億8,402万円

議会用語

附帯決議

本会議又は委員会において可決された案件に対し、事業を執行する上での要望や留意事項を述べるために提出されるものです。

こんなことを審議しました 3月定例会の概要

2月20日から3月13日までの23日間で開催され、予算議案(当初・補正)23件、予算外議案41件、諮問7件、専決処分報告2件、委員会提出議案1件、附帯決議案1件が提出され、全て、原案のとおり可決、同意、異議のない旨答申、承認されました。

佐伯市職員の給与表を改正

現行の8級制を廃止し、7級制に移行します。

反
討
論
対
論

山野内真人議員

現在の振興局長に課された責務は大きく、今回の振興局長の給与と位置づけを引き下げる取り扱いには妥当ではない。

賛
討
論
成
論

大野達也議員

九州の同規模自治体の多くは7級制を採用している。振興局長は部長と同列ではない職務の整理があり、管理職手当も7級の次長と同額に据え置かれ、理解ある処遇である。

採決の結果、原案のとおり**可決**しました。

反
討
論
対
論

高司政文議員

保険料の引き上げは被保険者の負担増に繋がる。被保険者間の対立を助長するような策であり、負担の強化は必要だが、本来は国庫負担が筋ではないかと考える。

賛
討
論
成
論

浅利美知子議員

この制度は、介護や支援が必要な人を社会全体で支えることを目的としている。介護に係る社会保障の充実に活用されることで、保険者、被保険者にも配慮されている。

保険料基準額と区分の変更

	保険料基準額	所得段階区分
変更前	66,600円	9段階
変更後	69,600円	13段階

令和6年度から令和8年度までにおける介護保険の保険料基準額を設定し、所得段階区分と保険料率を変更します。

介護保険条例を改正

採決の結果、原案のとおり**可決**しました。

反
討
論
対
論

上田徹議員

318事業にも上る各種の補助金の交付に関して、副市長は補助金の交付要綱の見直しを全庁的に指示すると答弁しており、わざわざ附帯決議を付けることには疑問が残る。

採決の結果、原案のとおり**可決**しました。

附帯決議案(詳細はP2に掲載)
一般会計予算に対する

反
討
論
対
論

高司政文議員

保険料が上がり、被保険者の負担が大幅に増える予算が組まれている。高齢者は物価高騰に加え、さらなる保険料の引き上げは大きな負担である。

賛
討
論
成
論

坪根大吉議員

保険料率と賦課限度額について、上昇の傾向であるが、軽減措置など受けやすくなる。世代間の負担の公平さを維持し、財政運営を安定的に維持している。

採決の結果、原案のとおり**可決**しました。

後期高齢者医療特別会計予算

令和5年度補正予算も可決!

今回の一般会計補正予算の合計は、13億5,376万円増額し、補正後の予算総額は499億7,292万円となりました。

主なものは、事業費の確定に伴う調整によるものですが、国直轄の港湾改修事業に係る負担金事業や、令和6年度の税制改正により実施することとなった定額減税において、減税しきれないと見込まれる世帯に対し、その不足分を補足給付する事業、また、電力・ガス・食料品等の価格高騰による負担増を踏まえ、低所得者支援交付金を支給する事業(どちらも国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を充当)の予算を計上したものです。

29年ぶり 議員報酬引き上げ

令和5年8月3日、議会改革調査特別委員会の調査結果を踏まえ、適正な議員報酬について審議していただくため、議長から市長に対し「佐伯市議員報酬及び特別職給料審議会」の開催を要請しました。

市長が審議会を開催し、議員報酬の額について諮問した結果、議員定数の削減等を考慮し議員報酬を引き上げる旨の答申が出されたため、3月定例会において議員報酬に関する条例改正案を提出し、可決しました。

改定後の議員報酬の額（令和7年の次回改選後から）

	現 行	改 定 後	引 上 額
議 長	434,000 円	447,000 円	13,000 円
副 議 長	391,000 円	405,000 円	14,000 円
議 員	368,000 円	387,000 円	19,000 円

これまでの議員定数の推移

- 平成17年3月合併前は定数124人
- 平成17年3月合併後は定数44人
- 平成21年4月から定数30人に削減
- 平成25年4月から定数26人に削減
- 平成29年4月から定数25人に削減
- 令和7年4月から定数22人に削減

〔議員の表決態度の公表〕

※賛否が分かれた議案等について掲載しています。

※議長(吉良栄三)は、通常の過半数議決には表決権がありません。

件 名	議 決 結 果	賛 成 ○	反 対 ●	至 誠 会			さいき会			彗星会		志 高 会		新 生 会		公 明 党		佐伯を 先ずる 会	無 会 派						
				高橋圭一	染矢和龍二	廣津留善寛	梶川栄治	大月健治	塩野達也	大野松平	富野万豊	河野志	本杉貴志	戸高秀世	本房代	森三千年	坪根大彦	福嶋勝光	御手洗秀徹	上田美知子	浅利勇人	後藤眞人	山野内清三	井上政文	高司隆洋
佐伯市職員の給与に関する条例の一部改正について	原 案 決	19: 3		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	●	議長	
佐伯市介護保険条例の一部改正について	原 案 決	21: 1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	議長
議案第1号、令和6年度佐伯市一般会計予算に対する附帯決議	原 案 決	21: 1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	議長
令和6年度佐伯市後期高齢者医療特別会計予算	原 案 決	21: 1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	議長
令和6年度佐伯市介護保険特別会計予算	原 案 決	21: 1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	議長

総務常任委員会

予算外議案17件及び専決処分の報告
1件は全て可決・承認すべきものと決す

消防団員の報酬等の見直し

総務常任委員会でも調査・研究を行っている消防団員の処遇について、報酬の見直しが行われた。今回は基本消防団員（副分団長・部長・班長・団員）の年額報酬及び出勤報酬を表のとおりに改正した。

年額報酬の改正

階級	改正前(年額)	改正後(年額)
副分団長	36,200円	45,500円
部長	31,100円	42,000円
班長	26,000円	37,000円
団員	23,000円	36,500円

出勤報酬の改正

区分	改正前(1回につき)	改正後(1回につき)
災害出勤 警戒・捜索等	3,500円 (8時間超7,000円)	4,000円 (4時間超8,000円)
訓練等	3,000円	2,500円

建設経済常任委員会

予算外議案12件
全て可決すべきものと決す

令和7年10月日本語学校開校へ 旧佐伯税務署を無償貸付け

- 貸付け相手方
株式会社京都民際
- 無償貸付け期間
令和6年4月1日から
令和11年3月31日まで

株式会社京都民際は、平成13年に京都で日本語学校を開校し、20年以上の実績を持ち、東南アジアを主とした多国籍の留学生を受け入れている特色豊かな日本語学校です。

令和7年10月開校を予定しており、将来的には200人を超える受け入れ体制をめざしている。



▲ 旧佐伯税務署（佐伯市蟹田）

教育民生常任委員会

予算外議案10件
全て可決すべきものと決す

放課後児童クラブ 開所時間を拡大

保護者から要望のあった開所時間について各クラブとの協議を踏まえ、開所時間を変更する。

- 施行日
令和7年4月1日

区分	改正前	改正後
平日	放課後～ 17時30分	放課後～ 18時
土曜日	8時30分～ 12時	8時～ 18時
長期休暇期間	8時30分～ 17時30分	8時～ 18時

※長期休暇とは、春・夏・冬休み

代表・ 一般質問

代表質問 2月27日

一般質問 2月28日、29日、3月1日

※代表・一般質問の掲載について

代表・一般質問の記事は、議員の責任において、本人が質問・答弁の原稿を作成しています。その内容に相違がないときは原則として原文のまま掲載しています。

なお、代表・一般質問の掲載順序は紙面の都合上、質問順とは異なります。

※各議員の一般質問は二次元コードからご覧になれます。

質問者	質問の要旨
公明党 浅利美知子	・行財政について ・防災・減災対策の強化について ・誰もが安心して暮らせる社会について ・健康と医療について
新生会 上田 徹	・佐伯市行政経営推進プランについて ・国際交流について
佐伯を元気にする会 井上 清三	・市職員の人財育成について ・介護を取り巻く環境について ・合併時の「新市の道路整備構想」について
至誠会 高橋 圭一	・内部統制について ・市営第2駐車場跡地について ・都市計画道路 広小路下城線について
さいき会 冨松 万平	・市長の施政方針について
志高会 森 三千年	・これからの佐伯市の水産業について
大野 達也	・公共建築物の木材利用と景観について ・関係人口との関わりしるについて
本杉 貴志	・AIとIoTによるスマート獣害対策について ・運転免許自主返納に対する支援について ・市職員の挨拶について
高司 政文	・鳥獣被害対策のモデル地区設置について ・生活保護の医療扶助のオンライン資格確認について ・水源地の確保による断水対策について ・介護保険の訪問介護報酬引き下げについて
西條 隆洋	・人口減少対策について ・多文化共生社会について ・鶴見・大島の環境整備について ・コミュニティバスの利用促進策について
戸高 秀世	・コロナ禍におけるプレ券事業について ・飲食店の事業承継支援について ・さいき応援大使について
大崎 栄治	・介護予防サポーターについて ・子ども食堂について
後藤 勇人	・小中学校授業の短縮について ・不登校特例校について ・消防行政について ・「心のサポーター」養成事業の導入について
御手洗秀光	・能登半島地震に対する支援と教訓について ・市職員の退職状況と今後の課題について
塩月 健治	・養殖業者への支援について ・佐伯市公設水産地方卸売市場（鶴見市場）について ・外国人労働者について
梶川 善寛	・災害時の初動と佐伯市業務継続計画（BCP）について ・大災害への備えについて ・さいきオーガニックシティの取組について
坪根 大吉	・第1次佐伯市有機農業推進計画における成果について ・第2次佐伯市有機農業推進計画について
本田 房代	・災害に備えた取組について
廣津留龍二	・佐伯市公設水産地方卸売市場について ・地域おこし協力隊による第1次産業への関わりについて ・農道及び林道等の管理について
山野内真人	・上浦地域の活性化について ・米水津地域の活性化について ・鶴見地域の活性化について ・興人送水管問題について

答

活躍の場などの体制づくりが必要と考えている。今後は、ボランティアの参加や特等とニーズがマッチングする取り組みを市社会福祉協議会と連携し実施する予定である。

問

豊富な知識や経験を持つ高齢者がボランティアなどで社会貢献したい等、希望に応じた活動の場所や機会をマッチングする体制ができないか。

答

令和2年国勢調査で、ひとり暮らしの高齢者世帯は18・4%、高齢者のみの世帯は34・3%で増加している。解消するには地域的交流が重要と考えており、さいきの茶の間やふれあいサロン等の充実を図る。

問


高齢者による孤立・孤独は深刻である。市の実態と対策を問う。

答

従来から設置している相談窓口と平行して、誰一人取り残さない「ふくしの総合相談窓口」を4月から本庁舎2階に設置し、包括的支援を進めていく。


問

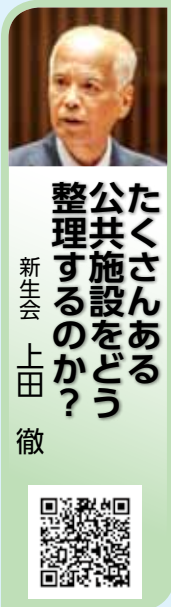
安心して暮らせる包括的支援を円滑に実施することが急務である。「佐伯市ならではの」包括的相談支援をどう進めるのか。



安心して暮らせる
地域共生社会の
構築を

公明党 浅利 美知子





**たくさんある
公共施設をどう
整理するのか？**
新生活会 上田 徹



問 地区集会所の地区譲渡は進んでいるのか。

答 86施設のうち、令和5年度までに21の地区譲渡が完了している。

問 残る地区集会所については今後どうしていくのか。

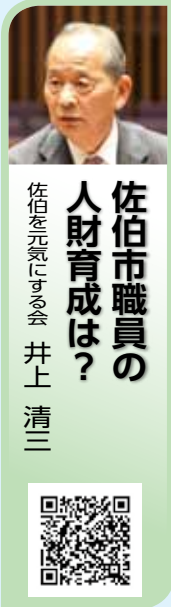
答 令和9年度までに用途廃止を基本方針として所管の各課において重点的に取り組んでいく。

問 なかなか進まないB&G関連の施設についてはどうしていくのか。

答 一定の利用者がある中で、統廃合等が進まない状況である。

問 利用者がいることは理解できるが、今後増え続ける維持管理費や公平公正の立場からも、厳しい判断をするべきではないのか。また、苦渋の判断となることから、市長が先頭に立って進めていくべきだと思いが、どうしていくか。

答 今後も、地区との合意形成に向け努力していく。全庁挙げて施設総量の適正化に向け取り組んでいく。

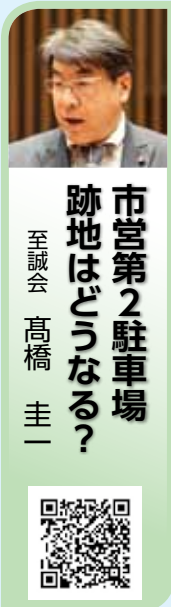


**佐伯市職員の
人財育成は？**
佐伯を元気にする会 井上 清三



問 市の職員は、子育て、教育、地域活性化、健康づくり、防災、そして行政経営等、多岐にわたり、6万3000人市民の生命・生活維持に密接に関わり、政策実行、その実現には職員が、一人一人の思いを持って取り組み、初めて事業が形になり、市政の発展へとつながると確信している。急激に変化する社会に対応するため、今までのやり方が最適とは限らず、柔軟に対応しながら、「今日よりも明日」、「明日よりも未来」に良くなって行き、市民が幸福を感じる事が仕事だと推測する。そんな職員の方向性となるのが、佐伯市人財育成基本方針で、人事管理や研修など、職員として必要な知識やスキルを身につけることであるが取り組み状況を問う。また少子高齢化の進展・生産年齢人口の減少・大規模災害・感染症など、新たなリスクの顕在化、デジタル社会の進展等で、複雑・多様化課題に対応のため、「国の人財育成・確保基本指針」が改正された。市の認識を問う。

答 職位や年齢に応じた必須研修や職員が参加する選択研修を実施し、新採用研修・人権・同和問題・公務員倫理研修を実施している。また、国の「人財育成・確保基本指針」の内容は市の取り組みにも参考になる。特にデジタル人材の育成・確保については市のDX推進計画にかかしたい。



**市営第2駐車場
跡地はどうなる？**
至誠会 高橋 圭一



問 令和4年11月に公募型プロポーザルを実施したが応募者なしで不調となった要因は。

答 市営第2駐車場跡地については、民間事業者の柔軟な発想による企画・提案を受け入れ、中心市街地の新たな活力と賑わいを創出するため、公募型プロポーザルを実施した。ホームページやプレスリリースで周知を図ったが募集期間が約2か月と短かったことが主な要因ではないかと考えている。

問 再募集等の動きがないのはなぜか。

答 令和5年6月から12月まで、市営第2駐車場跡地の中央に横断している暗渠の改修工事が施工されたことから、公募を先送りしていた。現在は、不調の要因と考えた募集期間のほか、応募要件等見直し、4月1日からの公募に向け準備している。

問 グランドデザイン推進の今後の考え方は。

答 当該用地については、遊休地を活用した民間事業者の柔軟な発想による中心市街地の新たな活力と賑わいの創出をめざしている。基本的な考え方は「周辺環境に配慮し中心市街地の賑わい創出に資すること」としているが、その用途については限定せず利用形態を幅広く認め、民間事業者の自由なアイデアの具現化を図っていく。



葛港の振興は？

さいき会 富松 万平



問 グランドデザインでは駅前・港エリアのテーマを「海を感じ、遊びたくなる港町」としている。その中心施設となる予定であった葛港市場は新築案から改築案へと移行し、その計画も入札不調によりとん挫した。

現在、公設市場を鶴見市場へ一本化し、葛港市場は移転した上で民間市場をめざそうとしている。これは当初のグランドデザインと齟齬が生じているのではないか。港エリアの今後の振興について問う。

答

港エリアは現在策定中の「佐伯駅前・港エリア賑わいまちづくり計画」において、現葛港市場のふ頭を中心に、国が進める「みなとオアシス構想」の拠点施設として待合所や発券場、店舗、憩いのスペース等の機能を有する離島航路ターミナルの整備を検討している。さらに施設周辺には駐車場や広場を複合的に整備するため、大分県をはじめとする関係者との協議を進めている。

今後は葛港市場解体後に速やかに拠点施設の整備工事に着手できるよう必要な調査検討作業を進めることとしており、令和6年度は国の制度を活用して公民連携事業に係る可能性調査を実施する予定である。葛港市場についてはエリア内での移転であり、複合施設による賑わいの創出を図ることから、当初のグランドデザインとの齟齬が生じているとは認識していない。



豊かな佐伯市 水産業の継続

志高会 森 三千年



問 海水温の上昇が海洋生態系に大きな影響を与えている。高水温耐性能力の高い品種の作出や、高水温でも消化しやすい餌の開発に取り組みが必要があると思うが、市の考えを伺う。

答 海水温の上昇が養殖魚の成長悪化や魚病の発生に関係することが分かっている。これらの課題に対処するため、沈下式生けすをブリ養殖で試験を行い、海水温上昇や赤潮対策に寄与すると評価を得ている。高水温耐性種苗については、夏場の病気になるにくい形質を持ったヒラメ種苗を作出するもので、現在、県を中心に研究、調査、実験段階であり、研究成果に応じ、支援策を講じていきたい。

問 燃油や餌代の高騰等により、水産業を取り巻く環境は全国的にも厳しい。佐伯市の水産業が豊かであり続けるため、市として総合的な取り組みがあれば伺う。

答 水産業が豊かであり続けるため、漁場環境を守り、所得向上を図ることが重要である。また、経営改善に資するICT技術導入の検討、養殖魚のブランド化を進め、県漁協の新たな加工施設を支援し、養殖業の振興につなげていく。



原則「木造化」とあるがなぜ

大野 達也



問 温暖化が急速に進行している。温室効果をもたらす二酸化炭素、これを吸収する森林に期待が寄せられる。

木材利用はその販売収益が次の造林に寄与し、森林資源の循環につながる。本市においても、公共建築物は木造化を図るとされている。しかし、新設のレンタサイクル収納庫は、金属製の既製品であった。なぜか。

答 安価で、短時間で設置可能であるため。

問 地域材利用の市の認識は。

答 地域経済の循環、林業・木材産業の持続、森林の適正整備、森林の多面的機能の発揮、脱炭素社会の実現に貢献する重要な取り組みと認識している。

問 今後の公共建築物の木質化は。

答 基本方針に基づき、積極的に取り組む。



▲レンタサイクル収納庫



AIとIoTによる スマート獣害対策

本杉 貴志



問 有害鳥獣被害を受ける地域では狩猟従事者の高齢化や担い手が不足しており、捕獲や駆除を効率的に進められる技術が必要とされている。そこで、獣害発生地域での人材不足を解決するため、AIとIoTを用い、檻の遠隔監視や餌管理の遠隔化、自動化を可能とする農の管理システムを導入することで猟師の巡回稼働回数の削減につながり、管理作業の省力化が図れると考えるが、市の考えを伺う。

答 本市では新たな担い手確保の取り組みを行っているものの、有害鳥獣捕獲班員の約45%が70歳以上と高齢化が進み、捕獲班員の減少が懸念される。こうした状況の中、捕獲活動を継続していくためには、負担軽減につながるICT機器等の活用も検討する必要があると認識している。しかし、導入するには、運用方法や費用の問題など多くの課題がある。そのため、現在の取り組みとして、ICT機器に関する理解を深めるため、研修会への参加や情報収集を行っているところである。今後とも猟友会等の関係機関と協議しながら、引き続き情報収集に努め、ICT機器等の導入及び運用に関する性能やコスト、効果の分析等を行い、機器導入について検討していく。



井戸を掘って 大規模災害に 備えよう！

高司 政文



問 水源地から最遠世帯までの距離及び新たな水源地または臨時的な水源地の確保について伺う。

答 水源地から最遠の世帯までの距離は、上岡樫野の取水口から、上浦浪太の世帯まで17・5キロメートルである。また、多くの浄水場は複数の水源が確保されており、新たな水源を設置する計画はない。

問 過去の水源地で再開できる場所はないか。

答 本市の水道施設は、水源が99ヶ所、浄水場が50ヶ所、配水場が69ヶ所ある。休止している予備水源は、水質検査等ですぐできる体制になっている。

問 東日本大震災以降、井戸の役割が見直されている。井戸の新設等について伺う。

答 市では、飲料水の備蓄はしているが、生活用水は確保していないので、井戸の利用は大変有益だと思っている。



▲ 安井の井戸



「多文化共生社会 の先にある佐伯の 未来の明暗は？」

西條 隆洋



問 多文化共生社会について伺う。

答 本市では、持続可能なまちを創るため、「さいきオーガニックシティの実現」に向け、転入者数が転出者数を上回る社会増の取り組みの一環として、外国人を地域の一員として積極的に受け入れるなど多文化共生社会の推進を図っていくべきだと考えている。

市は外国人の方々も参加するイベントの支援を行うことで在留外国人と地域住民の交流に力を入れている。

また、あまべ商工会の「外国人技能実習事業」に補助金を交付するなど地域での外国人受け入れに対する支援も行っている。

一方で、受け入れ側となる市民の外国人に対する理解を深めていくことが課題の1つと言える。

また、外国人向けの相談体制や生活に必要な日本語を習得できる環境、災害時や緊急時を含めた日常生活に必要な情報の伝達方法なども課題に挙げられる。

第2次佐伯市総合計画後期基本計画では国際化の推進を掲げているので、そうした施策も今後全庁的に取り組んでいく。



飲食店の 事業承継支援

戸高 秀世



問

コロナ感染症が5類に移行し、売上が回復している飲食店でも後継者不足で事業を継続できず、廃業してしまつケースも多い。佐伯市では惜しまれながら廃業してしまつた名店もある。飲食店業界は、材料費や人件費の高騰、人材確保の難しさ、顧客ニーズの多様化、厳しい経営を強いられている。佐伯市の観光の一つとも言える飲食店の事業承継支援は今後の課題と思うが、支援に対する市の見解を問う。

答

事業承継の問題については、飲食店に限らず、製造業や小売業をはじめ、あらゆる業種に広がっており、本市においても、問題解決の必要性を強く感じている。本市では令和6年度から事業承継を推進するための事業をスタートさせる予定。初年度の取り組みとしては、市内事業者に対し後継者の有無や事業承継に関する意識・実態等についてのアンケート調査を行う予定。

この調査により事業承継に関するニーズや問題点を具体的に把握し、将来的には事業承継の専門機関である「大分県事業承継引継支援センター」などと連携し、後継者のマッチングや事業承継の支援を行っていききたい。その他にも市内事業者等を対象とした事業承継に関するセミナーを商工団体、金融機関、専門機関と連携して開催したいと考えている。



民間団体、子ども食堂 に支援の拡充を！

大崎 栄治



問

第2期佐伯市子ども・子育て支援事業計画では、「子どもの健全育成の観点から、放課後の子どもの居場所づくり（子どもの食堂・学習支援）の充実を図ります。」とあるが、どのような形で取り組むかを問う。

答

子ども食堂は、食事の提供だけではなく学習支援や生活の習慣なども図られ、地域における憩いの場の役割も担っている。また、多世代の交流は、子どもが心身ともに健やかに育っていく過程で、非常に大切な機会にもなっている。

子どもの健全育成を図る上で、子どもの居場所づくりの充実は大変重要であると認識しており、子ども食堂のさらなる開設や運営の充実を図るため、関係団体と連携しながら支援の強化を行う。



▲子ども食堂

問



確実な救急活動を 目指して！

後藤 勇人



スマホからの119番通報の際に消防管制員が現場の映像が必要と判断した場合、管制員が通報者に協力を依頼してスマホで撮影した映像を送ってもらうシステムが運用されている。音声だけの通報では情報が分かりにくいケースもあり、通報者に映像を送ってもらうシステムを指令本部の統合時に導入を提案できないか問う。

答

映像通報システムとは、119番通報のみでは伝えることが困難な状況でも、映像から現場の状況が把握できることから、地理不案内者からの通報時に災害発生場所等を早期に特定したり、火災や交通事故などの災害状況を通報者のスマホを活用して、現場の状況をリアルタイムに「見える化」する映像システムである。また、通報者のスマホに映像を送信することも可能であり、心肺蘇生法などが必要な緊急性の高い救急事案では、通信指令員が通報者に対して映像を確認しながら応急手当のアドバイスを行うこともできるため、お互いが安心して、より効果的な救命処置を行うことで救命率の向上につながると考えている。

令和6年度から運用を開始する「おおいた指令センター」で映像通報システムを導入予定である。



**佐伯市職員の
早期退職理由は何？**
御手洗 秀光



問 人事評価制度について問う。

答 人事評価の目的は、評価というツールを使って、職員一人一人が市民や組織から期待される行動と成果を残せる職員に成長させることにある。人事評価制度は試行期間を含めて平成23年度から実施しており、組織目標を設定し上司と部下がしっかりとコミュニケーションをとりながら目標達成をめざして組織的に取り組む仕組みとしている。この仕組みを通じて、職員の資質向上と組織全体の活性化が図られていると考えている。

問 早期退職者の退職理由を問う。

答 届け出上は自己都合だが、内容は様々で聞き取り等により把握している範囲では、結婚や再就職等による生活環境の変化や、将来の人生設計に基づくものが主な理由であると認識している。

問 職員の仕事に対する満足度について調査する考えはないか問う。

答 人材育成に係る意向調査や職員調書を活用し、その記入方法を工夫することで意見集約したいと考えている。



**どうなる!!
鶴見市場**
塩月 健治



問 佐伯市公設水産地方卸売市場(鶴見市場)は、開設以来施設の経年劣化による老朽化が進み、その対策として、令和2年度より、整備の検討が行われてきているが、基本構想時に36億5000万円の事業費が示されたが、事業費の圧縮は。

答 令和4年度に策定した基本構想の概算事業費は36億5000万円だったが、令和5年度基本計画を策定するにあたり、実現可能な事業費などを協議し整備規模の見直しを図り、事業費が27億9000万円に圧縮した。

問 またその後、整備面積を精査した結果、事業費が5億3000万円減額され、22億6000万円となる。

問 新市場開設後の使用料が、現行から368万7000円増になり、利用者の負担が増える大きな懸念材料になっている。解決策はあるのか。

答 使用料は、事業費が圧縮され、現行より、121万3000円増に変更となる。しかしまだ、実質的な負担を抑制することは、検討の余地がある。



▲鶴見市場



**さいきオーガニック
シティの新たな取り組み**
梶川 善寛



問 学校給食だけでなく、妊産婦の方への有機米提供はできないか。

答 母子健康手帳交付時や赤ちゃん訪問時に妊産婦の食生活の現状把握をしている。また、保護者や乳幼児には、離乳食や幼児食の指導・周知を乳幼児健診時に行うとともに、健康づくり研修会や学習会等に取り組んでいるので現時点では妊産婦を対象とした有機米の提供事業は考えていない。

問 キエー口を活用し、給食残さいによる堆肥づくりを学校で行うオーガニック学習を行う考えはないか。

答 現在、給食の食べ残しを減らす指導に加え、微生物の力で完全に発酵させた土で野菜を育てる菌ちゃん野菜づくりやフードロスに関する授業実践を行っている。

問 SDGsでは各小・中学校において令和6年度から、各教科等で学習する内容と本市の自然や環境に配慮した取り組みの結びつきを示すため、さいきオーガニック憲章とSDGsを1年間の教育課程に位置づけたカリキュラム表の作成・実施を行い、オーガニックを意識させる教育に取り組み始めた。キエー口の配布・活用については、給食残さいの状況や設置場所などの条件を校長と協議し設置可能な学校から取り組んでみたいと考える。



堆肥の確保は 大丈夫か？

坪根 大吉



問 有機資源の循環利用による土づくりの中で、堆肥の安定供給に積極的に取り組むとしており、市で発生する有機資源（海藻やカキ殻、魚かす等）を循環利用し、堆肥製造を行うとあるが、どのように行っていくのか問う。

答 本市では、有機農業の推進により、堆肥の需要に供給が追いついていない状況である。一方、廃棄物として処理されている地域資源も多く、さいきオーガニックシテイの実現に向けて、地域資源を活用した堆肥の供給体制の構築が求められている。

現状では、直川の堆肥施設で年間約120トンの堆肥を製造しているが、製造量を更に増やすために、国の専門機関と連携して製造工程の見直しを進めている。あわせて、地域資源として挙げられる家畜ふんやもみ殻、へい死魚やカキ殻、学校給食残菜などの排出量の調査を行ったところである。

現在、これらを活用した堆肥を製造するにあたり、新たな施設の必要性、民間事業者との連携、運営形態、流通、販売方法等の諸課題について、調査検討を進めており、地域循環システム構想の策定に向けて取り組んでいるところである。



災害対応チーム組織 作りに取り組みませ んか？

本田 房代



問 市の職員は、防災危機管理課や社会福祉課等、防災に関連する業務に従事しているも、数年後には異動するため、災害対応のエキスパートな人材がなかなか育たないのではと感じている。また、業務以外でも、職員の中には消防団員としてやボランティア活動等で被災地を訪れた経験のある方も多いと思われる。そこで、これまでボランティアを含め防災業務に携わった職員や団体に、災害対応チームを組織してはと考えるが、市の考えを問う。

答 緊急時の災害対応では、災害対策本部組織の運用を最重要と考えており、別で災害対応チームを組織することは考えていない。

しかし、被災地を訪れた体験や災害ボランティアの経験などは大変貴重であり、現在取り組んでいる「事前復興計画」の策定にかかる意見交換の場等で助言を受けるなど、協力をお願いしている。



葛港市場と 鶴見市場の今後は？

廣津留 龍一



問 葛港市場の取り組み状況及び施設整備等を含めた今後のスケジュールを問う。

答 葛港市場は、昨年5月から、魚市場、県漁協、仲買人組合と協議を重ね、昨年12月22日、県漁協、魚市場、市の3者で協議し今後の方針を確認した。葛港市場は令和7年度末を目標とし県漁協佐伯支店前荷捌所に移転する。3者が連携し移転に係る課題を整理、解決していく。移転に伴い公設市場を廃止する。今後は令和7年度末の移転を目標に課題解決に向けて取り組んでいく。

問 鶴見市場の取り組み状況及び施設整備等を含めた今後のスケジュールを問う。

答 鶴見市場は、令和4年10月に市場運営及び漁港整備等の有識者、県漁協、漁業者、買受人、市で構成する鶴見市場整備検討委員会を設置し令和4年度は基本構想策定、令和5年度は基本計画の策定を進め、本年1月25日、県漁協幹部、市内漁協8支店の運営委員長、支店長が参加した県南地区漁業運営委員会において、計画概要や卸売事業者の使用料負担等説明を行い、翌日に県漁協理事会を開催し、計画案に卸売業者として承諾を得た。2月14日に、第4回検討委員会を開催し、事業規模、事業内容、費用負担等も含めた基本計画案が承認され、令和11年度中に供用開始を予定している。



旧南郡地域に光を
当て、活性化を！

山野内 眞人



問

佐伯の活性化には、旧南郡地域、今の振興局地域を、何としても元気にする必要がある。まず、上浦は、花とマグロも頑張っているが、何といても豊後二見が核である。豊後二見を中心として頑張ってもらいたい。

答

豊後二見は、遊歩道もできた。今後も、発展的な取り組みをしていきたい。

問

米水津地域は、レモンやシラスなどもあるが、何といても、日本有数の干し物の産地である。干し物で頑張ってもらいたい。

答

米水津には、養殖ブリやミカンなど、多くの産品がある。干し物一本とはいかないが、干し物は、代表的な特産品である。これを前面に打ち出しながら取り組みを進めたい。

問

鶴見地域は、鶴見市場に揚がる魚種の多さを重点にブランド化を図っているというが、水産課等と連携はできているか。また、鶴見半島に残るシシ垣を本格的・総合的に整備し、「九州の万里の長城」等と銘打って、貴重な民族文化遺産として、また観光資源として積極的に活用すべきでないか。

答

水産課等との連携はできている。シシ垣は貴重であり、市の指定文化財をめざすなど、後世に伝える取り組みを継続したい。

議会モニターとの意見交換会



▲一般モニターとの意見交換会の様子



▲団体モニターとの意見交換会の様子

一般モニター（2/6開催）と団体モニターとの意見交換会を開催し、「議会運営」や「団体からの要望」等の意見をいただきました。

御意見等は今後の議会活動にいかしていきます。

議員研修会・大分県南5市市議会議長会研修会



講師

俳優・京都府文化観光大使 常盤 貴子 氏
「人口減少社会における新たなまちづくり」

講師と議長との対話式での研修会を開催しました。議員の質疑にお答えいただきました。

佐伯市議会として
令和6年能登半島
地震義援金を25万
円寄付しました。
被災地の一日も早
い復興を心よりお
祈り申し上げます。

令和6年1月16日から17日までの2日間、視察研修を実施しましたので、お知らせします。

研修テーマ

- ①「議会の広聴機能の充実」
- 「市民との意見交換会の持ち方」
- ②「主権者教育」

市民の声を市政に反映させるには

日向市議会では、議会が市民団体に意見交換会の開催を申し込むだけでなく、「市民団体がテーマ設定をし、議会に開催を申し込める仕組み」を導入。小林市議会では、地区別、分野別、高校生・専門学校生、区長会の「4種類の意見交換会」の場を設置。

また、霧島市議会では、「各常任委員会がテーマを設定し、これに興味を持つ個人の参加者の公募」や「広報広聴委員会では地域別のテーマ設定をし、各地域で意見交換会を実施する」などの取り組みが進められていました。

様々な対話の場とテーマを設定し、小グループでのディスカッション形式を取り入れ、市民の声に傾聴する点は共通しています。

次世代の担い手にまちづくりの関心を

日向市議会では、高校生と議場での意見交換会を実施し、そこでの声を今後の政策提言につなげる取り組みが行われていました。

霧島市議会では、青少年議会として、中学・高校・大学の26校の全てを対象に、3グループに分け、3か年をかけて、声を聴く取り組みが行われていました。

今後の取り組み

これらを参考に佐伯市議会としても、多くの市民の声を取り入れた議会をめざしてまいります。



▲ 小林市議会にて

第14回 議会報告会 「議員と語ろう会」

5/11 土 4日間 開催します 5/19 日 5/12 日 5/18 土

どの会場でも参加できますので、ご都合にあわせてご参加ください。

班	班長	班員(議席順)				
1班	井上清三	森 三千年	梁矢和陽	戸高秀世	本田房代	山野内真人
2班	福嶋勝彦	梶川善寛	高橋圭一	河野 豊	浅利美知子	西條隆洋
3班	後藤勇人	廣津留龍二	大崎栄治	高司政文	塩月健治	上田 徹
4班	富松万平	坪根大吉	本杉貴志	大野達也	御手洗秀光	

日 時	会 場	担当班	
11日	午前9時30分～11時00分	青山地域コミュニティセンター	4班
	午前10時00分～11時30分	八幡地区公民館	2班
	午前10時00分～11時30分	大入島地域コミュニティセンター	3班
	午後1時30分～3時00分	本匠地域コミュニティセンター	4班
	午後2時00分～3時30分	直川地域コミュニティセンター	2班
	午後2時00分～3時30分	宇目地域コミュニティセンター	3班
12日	午前9時30分～11時00分	鶴見地域コミュニティセンター	4班
	午前10時00分～11時30分	米水津地域コミュニティセンター	2班
	午前10時00分～11時30分	上浦地域コミュニティセンター	3班
	午後1時30分～3時00分	鶴岡地区公民館	4班
	午後2時00分～3時30分	渡町台地域コミュニティセンター	2班
	午後2時00分～3時30分	上堅田地区公民館	3班
18日	午前9時30分～11時00分	弥生地区公民館	1班
	午後2時00分～3時30分	鶴見地域コミュニティセンター 田の浦分館	1班
19日	午前10時00分～11時30分	畑野浦地区公民館	1班
	午後1時30分～3時00分	佐伯市役所(6階 大会議室)	1班

本匠中学校 第2回佐伯市未来議会を開催

おつかれさま
でした



2月8日(木)本匠中学校の皆さんによる第2回佐伯市未来議会を開催しました。甲斐唯人さん(中学2年生)が議長を務め、7名の未来議員(1年~3年の中学生)による質問に対し、田中利明市長が答弁を行いました。4名の本匠小学校の児童も参加し、一般質問を見学しました。ありがとうございました。



表紙の題字の作成者

佐伯鶴城高校書道部



佐伯鶴城高等学校書道部は2年生5名、3年生5名の計10名で活動中です。

4月は新入生の勧誘に向けパフォーマンスの練習の真っ最中です。

パフォーマンスは

校内に限らず、写真にあるように地域のイベントでも、依頼をうけ実施しています。

どこかで見かけたら応援よろしくをお願いします。

6月定例会は6月4日(火)~6月26日(水)まで開催予定です

一般質問は6月13日、14日、17日、18日の4日間の予定です

編集後記

議会だよりの作成にあたり、心掛けている事。それはいかにして、1人でも多くの方に手に取って読んでいただけるかです。先進地視察や研修会に参加し、試行錯誤を繰り返しながら広報委員が一体となって作成に取り組んでいます。

そうした中、前回からの取り組みとして、市議会だよりの題字を市内の高校生にお願いしています。また、表紙の写真もできるだけ、市民の方にモデルとなってもらい紹介できたらと心掛けています。また、今、議会で行われているのかを中心に内容も伝えるのではなく「伝える」を心掛け編集に取り組んでいます。

議会だよりの発行として議会情報を発信していますので今後は、市民の皆様から、議会だよりの感想や感想等を聞けるような取り組みをやっていきたいと思っています。 西條 隆洋

本会議等の映像などは市議会のHPで公開しています。

